

2020年度一般入学試験問題

国語【看護学部】

(2月9日)

開始時刻 午前10時30分

終了時刻 午前11時30分

※ 数学の問題は、本冊子の左開きのページにあります。

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この冊子は21ページです。落丁、乱丁、印刷の不鮮明及び解答用紙の汚れなどがあった場合には申し出てください。
3. 国語か数学のどちらか1科目を選択し、該当する解答用紙を切り離して解答してください。2科目とも解答した場合は、すべて無効となります。

数 学 1～4ページ

国 語 1～17ページ

4. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。

① 受験番号欄

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

② 氏名欄

氏名とフリガナを記入してください。

5. 解答は解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、

10

と表示のある問いに対して◎と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の◎にマークしてください。

(例)

10	a	b	◎	d	e
----	---	---	---	---	---

6. 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいません。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

次の文章を読んで、後の問一〜九に答えなさい。

地球が水星より大きいという事実があるかどうかは、天文学者たちが何を主張するかに依存しない。^Aもし依存関係があるとすれば逆である。地球と水星の大きさの比較で天文学者たちが何を主張するかは、地球が水星より大きいという事実があるかどうかに依存する。事実のあるなしが先行していて、天文学者たちの主張がそのあとにくる。天文学者たち自身が、そういう依存性の方向をゼン^Aテイにしている。地球と水星の比較的大小についての事実がまずあり、それがいかなる事実かを決めるのが天文学者たちの仕事（の一部）だというゼン^Aテイである。くわしく言えば、地球は水星より大きいという事実があるか、水星は地球より大きいという事実があるか、X、いずれかであり、これは「大きさ」という概念によって保証されるが、天文学者たちは、この三つの可能性のうちどれが現実かを決めるのである。

Y 観察するということは、知覚することである。知覚には一般に視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚の五感があるが、惑星は地球を除いてあまりにも遠いので視覚以外の感覚は容易には使えない（地球でさえ五感すべてを駆使するのは必ずしも生産的ではない——とくに味覚の使用は控えたほうがよからう）。

Z だけにたよって地球は水星より大きいという事実があるのを確認するのは困難なので、望遠鏡の助けが重要だが、肉眼以外のものにたよる観測は視覚の域をこえていると結論するのはまちが^Bっている。高性能のコンピューターを備えた大掛かりな天体望遠鏡だろうが、近所の文房具屋で買えるルーペだろうが、視覚の助けになる人工的補助器具を使っただけからといって、視覚以外の手段で事実のありなしを判断しているということには必ずしもならない。電波望遠鏡のアウトプットは、ルーペごしに見る新聞の文字のように対象を端的に表すヴィジュアルイメージではないが、それ自体視覚の対象であり、それを処理して天文学的に有意な情報に変換するための装置もそれ自体視覚対象である。

天文学者は、望遠鏡など一連の装置を駆使して惑星やそのほか宇宙内の遠距離物体についての事実のありなしを決める技に誰よりも長^たけているのであるが、なぜそのような技が必要なのか。それは、地球が水星より大きいという事実のありなしは、わたしたち人間の思うままにはならないからである。地球と水星は人間の思いとは独立に存在し、人間の思いとは独立に何らかの大きさがあるからである。あなたやわたしや経済学者やジャズピアニストや落語家や天文学者がいようがいまいが、どんなことを思おうが感じようが、地球と水星は独立に存在し独立の大きさをもつ。わたしたちの自由にならない事実のありなしを確認するために、そのような技が必要になるのだ。地球と水星に関する事実だけではなく、天の川銀河とアンドロメダ銀河に関する事実や、イルカと魚類に関する事実や、そのほか諸^{もろ}々の事実についても同様である。

ほとんどの事実のありなしは人間の自由にならない。世界にはわたしたちのほか数多くのものが存在し、わたしたちの知覚は、それがおよぶかぎ

り、通常それらのものをほぼ大体あるがままに示してくれる。そういう頼りがいのある知覚にたよっているからこそ、わたしたちは適切な行動ができ、生きのびられているのである。そういう世界にわたしたちは住んでいるのである。この世界観を「ナイーヴ・リアリズム」という。地球や水星はそのキボやわたしたちからの距離などにおいて、お金やクラリネットや小話とちがいで、五感の日常的な使い方ではそのありようの細部を把握できにくいのので、五感——とくに視覚——を補助する望遠鏡や大型コンピュータなどの大キボな機器を自由に操る技術がなければ研究できない。そのような技術をもつ専門家が天文学者なのであるが、彼らは天体観測に必要な技術と天体観測結果を解釈する理論的知識をもっているという点で経済学者やジャズピアニストや落語家とちがうだけであって、五感以外の特別の知覚能力が備わっているわけではない。

（八木沢敬『「正しい」を分析する』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。）

問一 傍線部ア、イの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の選択肢から、それぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

アが 1、イが 2。

ア ゼンテイ		イ キボ	
(a)	症状がアンテイする	(a)	約束のキジツを守る
(b)	記念品をゾウテイする	(b)	フウキが乱れる
(c)	カイテイを探索する	(c)	キミツ文書の取り扱い
(d)	文書のテイサイを整える	(d)	キソク正しい生活
(e)	食事をテイキョウする	(e)	住宅のキソ工事

問二 傍線部A「もし依存関係があるとすれば逆である」とあるが、筆者がそのように考える理由として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選

び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 3。

- (a) 地球が水星より大きいかどうかは、天文学者には分からないと考えているから。
- (b) 地球の大きさは、水星の大きさが決まると相対的に確定するものであると考えているから。
- (c) 地球と水星の大きさについての事実を確認するのが、天文学者の仕事であると考えているから。
- (d) 地球が水星より大きいかどうかは、天文学者の主張によって変わると考えているから。
- (e) 地球と水星の大きさについての天文学者の主張には、間違いが多いと考えているから。

問三

X

に当てはまる語句として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

4

。

- ① 両者は同じ大きさだという事実があるか
- ② いずれも存在していないという事実があるか
- ③ 天文学者が大きさを決めてしまうか
- ④ 大きさについては考慮しないことにするか
- ⑤ 事実と主張の依存関係について再考するか

問四

Y

に次に示す①～④の文を並べ替えて入れるにはどのような順序で並べたらよいか、最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解

答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

5

。

- ① なぜ経済学者でもジャズピアニストでも落語家でもなく、天文学者なのか。
- ② だが、なぜ天文学者なのか。
- ③ それは、天文学者は、惑星を観察しそれについて考えることにおいて、経済学者やジャズピアニストや落語家より優れているからにほかならない。
- ④ 経済学者やジャズピアニストや落語家が惑星についてあれこれ言っても、天文学者が惑星についてあれこれ言うほど信ぴょう性が高くないのはなぜか。

- ① ① ↓ ③ ↓ ② ↓ ④
- ② ② ↓ ① ↓ ④ ↓ ③
- ③ ② ↓ ④ ↓ ① ↓ ③
- ④ ④ ↓ ① ↓ ③ ↓ ②
- ⑤ ④ ↓ ③ ↓ ② ↓ ①

問五

Z

に当てはまる語句として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

6

Ⓐ 知覚

Ⓑ 視覚

Ⓒ 観察

Ⓓ 推測

Ⓔ 肉眼

問六

傍線部B「まちがっている」と筆者が考える理由として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

7

Ⓐ 電波望遠鏡のアウトプットは、ルーペ越しに見る新聞の文字とは違うため。

Ⓑ 望遠鏡やルーペの使用によって、視覚以外による判断が可能になるため。

Ⓒ 人工的な視覚を補助する器具の使用には、視覚以外の知覚が必要のため。

Ⓓ 電波望遠鏡による観察結果は、視覚によってしか知覚できないため。

Ⓔ 水星の観察は、肉眼によっても可能であるため。

問七

傍線部C「それらのもの」の指す内容として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

8

Ⓐ わたしたち以外のもの

Ⓑ 人間が自由にできるもの

Ⓒ 視覚をはじめとする知覚

Ⓓ 地球と水星に関する事実

Ⓔ ほとんどの事実のありなし

問八 傍線部D「天文学者」とはどのような存在か。その説明として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。

解答番号は、9。

- ① 天体観測に必要な五感以外の特別な知覚能力を備えている存在
- ② 装置を駆使して宇宙内の物体について把握する技をもっている存在
- ③ 天体に関する観測結果を解釈するための理論的知識のみを有している存在
- ④ 他の職業人と同等の惑星を観察する技術を備えている存在
- ⑤ 地球と水星の大きさの関係性を決める役割を担う存在

問九 本文の内容について説明したものとして適切でないものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

10。

- ① 筆者は惑星の例を用いて我々人間の世界の知覚の仕方について論述している。
- ② 筆者は我々人間が知覚にたよることと適切な行動が可能になると考えている。
- ③ 筆者は視覚が人間の知覚の中で最も優れている点に言及している。
- ④ 筆者は私たちが知覚によって事実を知ることができるかと述べている。
- ⑤ 筆者はほとんどの事実のありなしは人間の自由にならないと提えている。

メ モ

試験問題は次に続く。

次の文章を読んで、後の問一～八に答えなさい。

十二世紀頃になってはじめて「いかに生きるか」という問いが X 的な意味をもつことになった。この頃に都市が成立し、そこで新たな職業選択の可能性が開かれていたからである。農村出身の子弟は都市でギルドやツンフト（手工業組合）の職人になる可能性があったし、大学に進学し、法律家や官僚、司祭になる可能性も生まれていた。このような可能性が開かれたとき、はじめて人は「いかに生きるか」という問いに直面したのである。それまでは父親の職業を継ぐことが当然のこととされていた。いまやなにを職業とすべきかを考える中で「いかに生きるか」という問いが重要な意味をもったのである。

これが「教養」の始まりであった。この頃多少知的関心がある人はこの問いをローマ末期の作家たちに問いかけていた。当時の俗語としてのフランス語やドイツ語ではこのような問いに答えることはできなかったからである。ラテン語の能力はこの頃 ^ア センレンされ、人々は文法的な誤りなくラテン語を話せるようになっていった。そのラテン語を用いて「いかに生きるか」という問いが立てられていた。

その答えはすでに述べたようにローマ末期の作家によって用意されていたから、この頃の人々はまずラテン語で答えを考えたのである。ローマが衰退し、滅亡の危機にあったとき、人々はその中で「いかに生きるべきか」という問いに苦心して答えを出そうとしていたのである。この時 ^Ｂ 以後西欧社会の特に都市社会の住人にはローマ末期の人々の文献がこのような問いに対する基本的な答えとなった。その結果、後においても「教養」はなによりもまず古典語と結びつくことになったのである。

この時代は西欧においてはきわめて重要な ^イ カツキであった。西欧社会においてははじめて個人が誕生し、男女の恋愛も新しい局面に入っていた。西欧社会はこの頃から個人と社会の関係に意を用いなければなくなっていたのである。しかし人口の大半は ^{いま} 未だ農業に従事し、新たに生まれた都市の人口もそれほど多くはなかった。「いかに生きるか」という問いはまず都市の住人の中から生まれたから、そのような問いを自ら立てた人も最初は数が少なかった。人口の大部分は相変わらず親の職業を継ぐ人生を送っていたのである。教養の始まりは「いかに生きるか」という問いを立てたことであつた。そのような問いを立て得たのは都市の数少ない人々なのであつた。

しかしそのような問いが立てられる以前、あるいは以後でもそのような問いを立てる必要がなかった人々にとって人生はどのようなものだったのだろうか。教養の始まりが「いかに生きるか」という問いであつたとすれば農業などの伝統的職業に従事していた人々には ^Ｃ 教養は無縁なものだったのだろうか。

この問題に答える前に教養の定義をしておかなければならないだろう。教養についてはこれまで様々な定義がなされてきた。しかしそのほとんどは

西欧社会の特定の時代に成立した個人の生活態度を教養とするものであり、

Y

ものであった。

これまでの教養概念の中心には、文字があり書物がおかれていた。「教養がある」人とは多くの書物を読み、古今の文献に通じている人を指すことが多かった。当然読書の結果その人は世の中をよく知り、様々な事柄についての確な判断ができるとされていた。ときには「教養がある」人とは人格者でもあるとされていた。しかし歴史的に辿ってみると、それらは個人の教養にすぎず、教養概念の一部分でしかないことが解る。「いかに生きるか」という問いを自ら立てる必要がなく、人生をタイカなく渡っていた人々は数多くいたのである。それらの人々のことを考慮に入れ、「教養」の定義をするとすれば、次のようになるであろう。

「自分が社会の中でどのような位置にあり、社会のためになができるかを知っている状態、あるいはそれを知ろうと努力している状況」を「教養」があるというのである。そうだとするとそのような態度は人類の成立以来の伝統的な生活態度であったことが解るだろう。

たとえば農業に従事している人を考えてみよう。彼らは自分たちの仕事の人々の生活を支えていることを知っていたであろう。自分たちの仕事がある社会の中でどのような位置を占めているかについては自ら考えをめぐらすことはなくても、知っていたであろう。ただし彼らがそのことを言葉に出して語るためにはもう一つの「教養」つまり文字が必要であったから、それが言葉になるためには長い年月が必要であった。しかし彼らはこうしたことを身体で知っていたから、「いかに生きるか」という問いを立てる必要もなかったのである。こうした人々の人生に向かう姿勢をあえて教養というとなれば、それは集団の教養というべきものであろう。

教養にこのように個人の教養と集団の教養との二つの種類があるとすれば、すでに述べた西欧社会の十二世紀における革新は教養の一つの面の展開にすぎないことになる。しかしこの時代に個人の教養が生まれたということは集団の教養にも大きな影響を与えずにはおかなかった。

(阿部謹也『「教養」とは何か』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。)

問一 傍線部ア、イ、ウと同じ漢字を用いるものを次の各群の選択肢からそれぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが

11、イが 12、ウが 13。

ア センレン

- (a) 水でセンガンする
- (b) センゾを敬う
- (c) 建物をセンキヨする
- (d) センオウを極める
- (e) センドが落ちる

イ カツキ

- (a) カツキにあふれる
- (b) 漢字のカクスウ
- (c) カクシンをつく
- (d) カツコに入れる
- (e) カツコとした信念

ウ タイカ

- (a) 人口がゾウカする
- (b) 絵のカチが分かる
- (c) カコを振り返る
- (d) セイカが上がる
- (e) カコンを絶つ

問二 文中の空欄 14 に入る言葉として最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

14。

(a) 感覚

(b) 暫定

(c) 宗教

(d) 理論

(e) 実質

問三 傍線部A「「教養」の始まり」をもたらしたものは何か、最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

15。

- Ⓐ 代々続いている親の職業をどのように継ぐか考える必要性
- Ⓑ 国家が衰退し滅亡しかけていたローマ末期の作家の考えを学ぶ必要性
- Ⓒ 法律家や官僚、司祭になるといような職業選択の可能性が開かれたこと
- Ⓓ 人々が文法的な誤りなくラテン語を話せるようになったこと
- Ⓔ 都市が成立し、農村から都市に移り住む人が増えてきたこと

問四 傍線部B「この時」の指す内容として、最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

16。

- Ⓐ ローマが衰退し滅亡の危機にあった時
- Ⓑ ラテン語で考えられる能力を手に入れた時
- Ⓒ 男女の恋愛が新しい局面に入った時
- Ⓓ 個人と社会の關係に意を用いなければならなくなった時
- Ⓔ 都市が成立した時

問五 傍線部C「教養は無縁なものだったのだろうか」に対する筆者の答えとして、最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

17。

- Ⓐ 「いかに生きるか」という問いを立てる必要がなかったため、教養は無縁なものだった。
- Ⓑ 「いかに生きるか」について言葉に出して語らなかったため、教養は無縁なものだった。
- Ⓒ 「自分が社会の中でどのような位置にあるのか」を言葉に出して語らなかったため、教養は無縁なものだった。
- Ⓓ 農業に従事しながら本を読み、「いかに生きるか」について語れる人もいたため、教養は無縁なものではなかった。
- Ⓔ 「自分が社会の中でどのような位置にあるのか」を身体で知っていたため、教養は無縁なものではなかった。

問六 文中の空欄 Y に入る言葉として最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

18。

- ① 大体において肯定的な
- ② 大体において否定的な
- ③ きわめて狭い
- ④ きわめて差別的な
- ⑤ 高尚で難解な

問七 傍線部D「西欧社会の十二世紀における革新」に当てはまらないものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号

は、19。

- ① 個人の教養が生まれたこと
- ② 集団の教養が生まれたこと
- ③ 都市が成立し、農村出身の子弟も都市で就職できる可能性が生まれたこと
- ④ 都市の住人の中から「いかに生きるか」という問いが生まれたこと
- ⑤ 知的関心がある人がラテン語の能力を身につけたこと

問八 本文の内容を説明したものとして適切でないものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、20。

- ① これまでの教養概念の中心に読書が置かれていたのは、「いかに生きるか」という問いがラテン語を用いて立てられたことに関係している。
- ② 教養には個人の教養と集団の教養の二つの種類があり、個人の教養の概念は限られたものである。
- ③ 教養は、都市の住民が何を職業とすべきかを考える中で「いかに生きるか」という問いを立てたことに始まった。
- ④ 農業などの伝統的職業に従事し、「いかに生きるか」という問いを立てる必要がなかった人々には教養は無縁であった。
- ⑤ 「いかに生きるか」考えなくても、自分が社会の中でどのような仕事をしているか知っていれば教養があるといつてよい。

メ モ

試験問題は次に続く。

三

次の文章を読んで、後の問一～八に答えなさい。

現実の重みに打ちのめされるという実感は、自分が不幸に見舞われる場合には誰にでもよくわかる。私も小さなことにすぐへこたれ深刻になるのだが、昨今の日本では他人の話^Aを聞いただけで衝撃を受けるなどということはほとんどなくなってしまった。

しかし地球上の多くの土地では、まだまだ X ようなことがある。先日何回目かに訪れた南米では、アマゾンの源流近くまで入ったので、全長六千三百キロというアマゾン河の大きさを実感した。川幅は一番小さい支流でも一～四キロ、最大で十キロにも及び、増水期に冠水して川幅が広ると、最大で五十キロにもなる、という。

しかし何より私が心を動かされるのは、やはり人々の生き方であり、その表情である。

アマゾン河中流のマナウスの郊外で、アントニオ・アレイシオ・コロニーと呼ばれるハンセン病患者だった人たちの老人ホームを訪れた時のことである。「Y」というのはハンセン病は今では簡単に治る病気だから、彼らは厳密な意味でもう病人ではないのである。一九四〇年代に治療法が発見され、一九八〇年代にMDT（複合化学療法）と呼ばれる特効薬^Bができてからは、ハンセン病は何のコンセキ^Aも残さず、きれいに治る病気になった。しかしそれ以前の患者たちは、もう既に体のあちこちに第二次的災害^Bとして変形が残ってしまっていたから悲惨なのである。今私が働いている日本財団は、一九七五年以来全世界のハンセン病治療のために約二百億円近くを使って患者さんたちに薬を配り続けてきていて、数年のうちに終息宣言ができるだろう、というところまで漕ぎつけた。しかし世界中にいる旧患者たちのこうした後遺症を形成外科的に治してあげることがむずかしい仕事になる。Ⅰ

私たちの同行者の中にはカメラマンやテレビ関係者もいたから、どうしても本能として彼らはこうした病状をはっきり残している患者さんたちを撮影^Cしてしまう。私ははらはらしながら、顔では気付かないふりをして笑っていた。すると通訳の人が「中には怒っている人もいますから」と私にささやいた。Ⅱ

怒って当然であった。私が元患者でも不愉快な顔をしただろう。しかしその時私は病室の入り口に近いベッドにおととりと坐^{すわ}っている一人の男性患者のベッドのすそに腰を下ろしていた。Ⅲ

その人は九十六歳、そこに長年滞在している二十五人ほどの老人の中でも最長老であった。シートでよく見えなかったが、爪先も欠損しているせいか、年のせい^か、彼は立つことも不可能だと説明があった。

「でもこの方は歌がうまいですよ」

その人の顔は頬にふくよかな肉付きさえ感じられ、表情にはたった今楽しいことがあった直後のような微笑があつた。^D

「歌を歌っていただけますか？」

と私は通訳を通して頼んだ。ほんの一瞬はすかしそうにためらった後で、彼は歌い始めた。もちろん私にはポルトガル語はわからない。しかしそれはイタリア民謡のように聞こえた。そしてその勘は当たっていた。通訳の人は、私の耳元で、遠慮がちに、そしてやや遅れ気味に歌詞の一部を訳した。

「太陽は輝いて踊り、涼風は木陰を吹いて通りすぎる。オレンジの花はかぐわしく香り……そんな内容ですね。昔のことを思い出しておられるんでしょうね」

声も九十六歳の声ではなかった。

彼は靴屋であつた。その年では、妻はもちろん息子も娘ももう他界していないのかもしれない。そして彼自身は、立つこともできず、指さえも失つて、ということ、自分で背中を掻いたり、楽器を奏でたりすることさえ不可能になつても、それでも彼は、明るい日差しの春か秋の日に、大きな木の爽やかな陰に楽しげに坐っているように歌つたのであつた。その歌の中では、今でも彼には妻や子がおり、周囲には親戚の人も友達もにぎやかにいるという感じだつた。Ⅳ

家族も友も、今は彼の視界からも、この世を去つて行つてしまつたかもしれない。しかしそうした人々が、ひととき彼の周囲にいたということは確実なことなのだ。そしてそのような楽しい人生があつたということは、彼の生涯の幸福と成功の証^{あかし}であり、クン^イショウなのである。Ⅴ

不作法な見学者やカメラマンに入られて、怒ることなら誰にでもできる。私にもできる。しかし自分の外部で何が起ころうと、常に慎^{つつし}ましく、礼儀正しく、かつ楽しげにしているということは、ただならぬ生き方の芸術だ、とこのごろ私はそう思うようになった。

（曾野綾子「陽は輝いて踊り」による。設問の関係上、本文を改めたところがある。）

問一 傍線部ア、イの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の選択肢から、それぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

アが 21、イが 22。

- | | |
|---|--|
| <p>ア
コンセキ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"><div style="width: 45%;"><p>(a) 一朝イッセキで身に付くわざではない</p><p>(b) ヒッセキを鑑定する</p><p>(c) セキジツのおもかげを失う</p><p>(d) 溶液から結晶をセキシユツする</p><p>(e) 会社のジュウセキをになう</p></div><div style="width: 5%; text-align: center;">イ</div><div style="width: 45%;"><p>クンシヨウ</p><div style="display: flex; justify-content: space-between;"><div style="width: 45%;"><p>(a) バツグンの成績</p><p>(b) 初夏のクンブウを思わせるさわやかさ</p><p>(c) 失敗をキョウクンとして生かす</p><p>(d) イギリス王室からジョクンされた</p><p>(e) クンシは危うきに近寄らず</p></div><div style="width: 5%; text-align: center;">ク</div><div style="width: 45%;"></div></div></div></div> | <p>イ
クンシヨウ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"><div style="width: 45%;"></div><div style="width: 5%; text-align: center;">ク</div><div style="width: 45%;"></div></div> |
|---|--|

問二 本文には次の一文が抜けている。Ⅰ～Ⅴのどこに入る文か、選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、23。

・病人を見舞う時には、その人の目線と同じ高さまで自分の視線をそろえろとどこかで読んだからであった。

- (a) Ⅰ

(b) Ⅱ

(c) Ⅲ

(d) Ⅳ

(e) Ⅴ

ク

問三 傍線部A「他人の話を聞いただけで衝撃を受ける」とあるが、筆者が衝撃を受けたものとして最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答

欄の記号をマークしなさい。解答番号は、24。

- Ⓐ アマゾン河の長さ
- Ⓑ アマゾン河の川幅の広さ
- Ⓒ 元患者たちの身体に残った変形
- Ⓓ 元患者たちの不愉快な顔
- Ⓔ 歌を歌ってくれた元患者

問四 空欄 X に入る言葉として最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、25。

- Ⓐ 深刻になる
- Ⓑ どぎもを抜かれる
- Ⓒ 世界に知られている
- Ⓓ 誰も見ていない
- Ⓔ 生き馬の目を抜く

問五 空欄 Y に入る言葉として最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、26。

- Ⓐ コロニー
- Ⓑ 呼ばれる
- Ⓒ だった
- Ⓓ 訪れた
- Ⓔ である

問六 傍線部B「災害」という語を使用した理由として最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

27。

- ① アマゾン河の流域で起こる自然災害と似ているため。
- ② 当事者の責任ではないということを強調するため。
- ③ 悲惨な現状に至っていることをしつかり確認するため。
- ④ 多くの資金が必要であることを読者に知らせたいため。
- ⑤ 後遺症を治すことが難しい現実を訴えるため。

問七 傍線部C「顔では気付かないふりをして笑っていた」理由として最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。

解答番号は、28。

- ① 同行したカメラマンたちの行動を直接非難することができにくいと感じたから。
- ② カメラマンたちが病状をはっきり残している患者さんを撮影するのは当然のことだから。
- ③ 病状の跡をはっきり残している患者さんたちがかわいそうに思えたから。
- ④ 遠慮なく撮影するカメラマンたちの行動に対して腹が立ったから。
- ⑤ 気付かなかったことが、結果としてその場の雰囲気をごませることになったから。

問八 傍線部D「表情にはたった今楽しいことがあった直後のような微笑があった」のは、なぜだと筆者は考えているか、その理由として最も適切な

29。

- ① 歌っている歌の歌詞内容がとても明るい情景となっているから。
- ② 昔のことを思い出して、なごやかな心で歌を歌ってくれたから。
- ③ 明るい日差しの中、爽やかな木陰で楽しく歌っていると思えたから。
- ④ 歌の中では、今でも老人には妻や子、親戚の人がいると感じられたから。
- ⑤ この老人に楽しい人生があったことは疑いのない事実だと思われたから。